

祝 辞

沖縄県知事

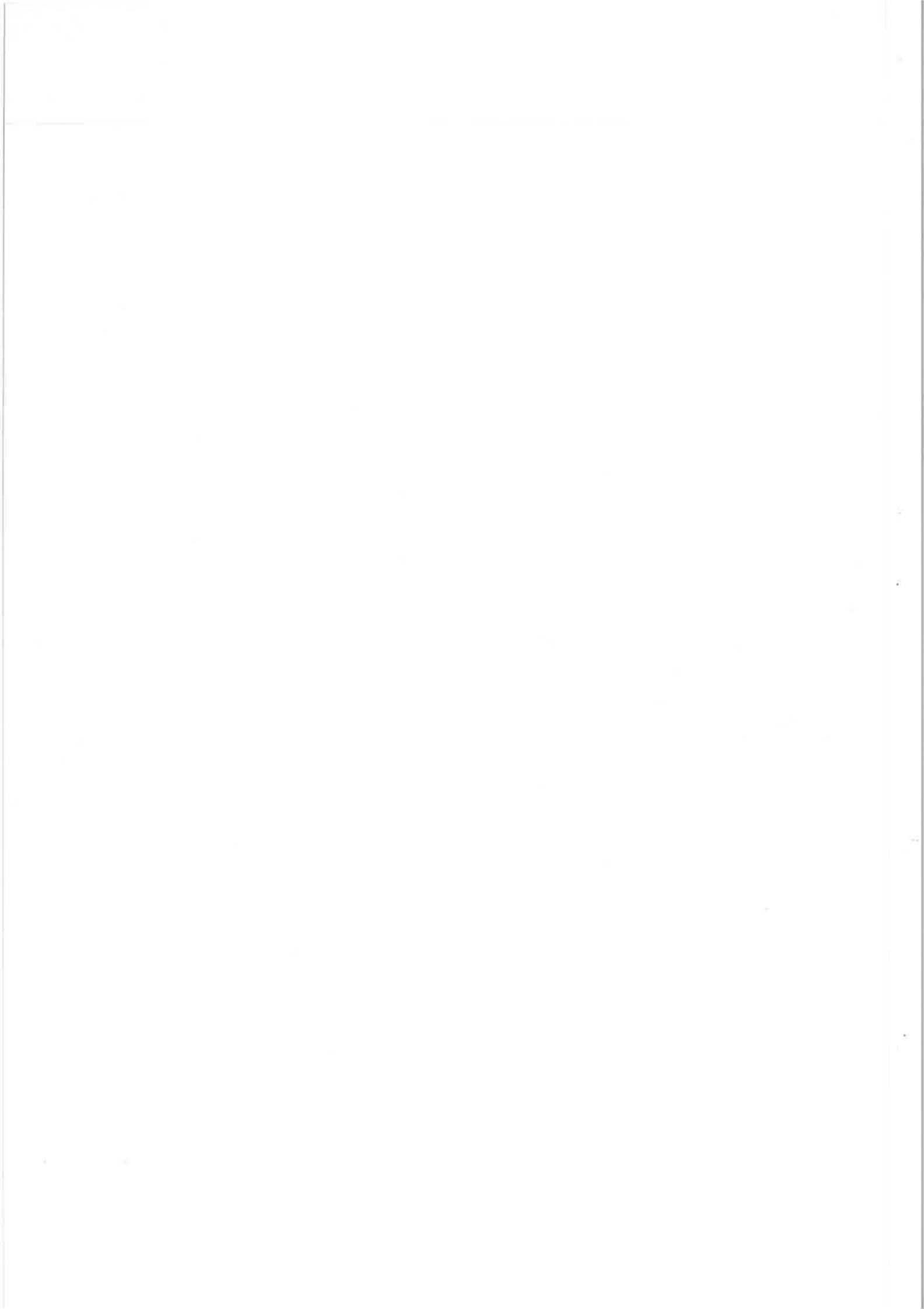
日本小児保健協会長

沖縄県市長会長

沖縄県町村会長

沖縄県医師会長







沖縄県小児保健協会設立 35 周年記念誌の 発刊を祝して

沖縄県知事

仲井眞 弘 多

社団法人沖縄県小児保健協会設立 35 周年記念誌の発刊に当たり、心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和 48 年に、小児保健活動を通して、子どもの心身の健全育成に寄与することを目的に発足なさいました。昭和 56 年の法人格取得を経て、今日まで本県の小児保健の向上に多くの実績を築き上げ、大きく発展してこられました。これもひとえに、役員をはじめ会員の皆様の並々ならぬ努力の賜ものであり、その御尽力を高く評価いたします。

多くの離島を抱える本県において、貴協会は、設立当初より関係機関や市町村等の協力を得て、県内全域の乳幼児を対象にした乳児健診事業を実施し、乳幼児の健康増進や子育てに不安を抱える親の支援に多大の貢献をしてこられました。

また、母子保健従事者を対象にした研修会や母子保健大会の開催、地域住民に向けた子育てに関する幅広いテーマを取り扱った講演会の実施、小児保健活動に顕著な功績があった者を顕彰する沖縄小児保健賞の授与などを通じて、地域の小児保健向上を目指した地道な活動を続けてこられたことに深く敬意を表します。

このような活動により、かつては全国平均を上回っていた乳児死亡率は、近年では、全国最高水準といわれるまでに改善されております。

一方で、少子高齢化、核家族化の進行など、小児

保健を取り巻く環境は、一層、複雑化、多様化しております。このような中、貴協会の担う役割は、今後、ますます重要になるものと考えております。

また、今年度、貴協会が設置、運営を開始されました沖縄小児保健センターを拠点として、地域における小児保健活動のさらなる充実が期待されます。

沖縄県においても、母子保健向上の指針となる「すこやか親子 2010」を策定し、本県のすべての親と子が健やかでたくましく成長することを目指しております。保健、医療、福祉、教育、産業等の関係機関と連携しながら、地域の特性に即した施策を推進しているところであり、引き続き皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、社団法人沖縄県小児保健協会のさらなる発展と会員の皆様の御健勝となお一層の御活躍を祈念しまして、記念誌発刊に当たっての祝辞といたします。

平成 20 年 12 月



35周年をお祝いして

社団法人 日本小児保健協会
会長 衛 藤 隆

本土復帰から1年2か月後の昭和48年7月28日に任意団体として発足されました沖縄県小児保健協会が本年7月にて満35周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。東西南北に島々が広い範囲に存在する特徴ある県域を構成している沖縄県にあって、早くから小児保健に力を入れ、その充実を図られて来られましたことに敬意を表します。昭和56年には法人格を取得され、学術、教育普及、広報に加え健診事業を展開されていることは、全国的にも大変ユニークといえます。これらの成果は、平成2年のエリエール奨励賞受賞、平成4年の保健文化賞受賞にも表れていますように、社会的にも大変高く評価されてきました。さらに受賞を記念して平成5年には沖縄小児保健賞基金を設置され、県内の小児保健活動において著しい功績を残し、今後も引き続き活躍が期待される個人・団体の顕彰を開始されました。地域の小児保健に関わる人材を育成し、その力を強化することに力を注がれていることは注目に値します。平成13年から、県の行政課題である麻疹対策への取り組みとして「はしか“0”プロジェクト委員会」の事務局を担い、プロジェクトに必要な資金の提供を行っておられることも、新たな課題への果敢な挑戦として注目しております。

このように、沖縄県小児保健協会は常に小児保健の課題を見据え、適切な事業や活動を展開しよ

うと努力して来られました。これらは都道府県域における小児保健活動としては全国でも突出した模範となるものであり、私たちも大いに学ばせていただきたいと思っております。

35年の道のりは決して楽なものではなかったと想像いたしますが、今後におきましても皆様の知恵と熱意を結集し、さらなるご発展がありますよう心よりお祈り申し上げます。日本小児保健協会としてもこれまでと変わらぬ密接な関係を保ちながら、ご支援いたしたく存じます。

簡単ではございますが、35周年をお祝いする言葉としてお捧げいたします。

平成20年12月



健全なる社会の発展と、健全なる小児の育成に向けて

沖縄県市長会

会長 翁 長 雄 志

社団法人沖縄県小児保健協会が創立 35 周年を迎えられるにあたり、お祝いの言葉を申し上げます。

沖縄県小児保健協会におかれましては、日本復帰の翌年、昭和 48 年 7 月に小児保健活動の実施と小児の健康増進を目的として設立されました。以来 35 年間、復帰後の混乱の時代から今日まで幾多の困難を克服され、乳幼児の健康診査による疾病の早期発見を始め、小児保健の普及および指導など諸活動を積極的に推進され、小児保健事業の発展に多大な貢献をしてこられました。

今日の沖縄県における小児保健事業の充実発展は、玉那覇榮一会長を始め、歴代役員並びに小児科医の先生方、小児保健関係者のたゆみない努力の賜ものであり、多年にわたる皆様方のご労苦に対し、深く敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。

近年、わが国の社会経済、生活文化は急速に進展して参りましたが、その反面、住民の価値観や生活様式は多様化し、地域の連帯意識の希薄化などが懸念されております。

また、核家族化による家庭環境の変化、女性の就労の増加等により、子どもを取り巻く社会環境は一段と厳しさを増しているところであります。

このような状況の下で次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに生まれ、よりよい環境の下で

育成されますことは私ども県民の願いであります。

子どもが乳幼児・学童期を経て大人になっていく人間形成の基礎をつくる重要な時期を、家庭・学校・社会が一体となって自由に健康でのびのびと遊べる地域環境づくりの推進とともに、その育成基盤である家庭での正しい知識と愛情によって子育てを支援していくことが、最も重要なことであり、貴協会が果たす社会的役割はますます重要になっていくものと存じます。

私ども地方行政に携わる者といたしましても、関係機関団体の皆様方と連携を密にし、次代を担う子どもたちの健全育成と社会環境の整備に一層努力して参る所存であります。

「健全なる社会の発展は、健全なる小児の育成になければならない」という貴協会の設立趣旨に基づき小児保健事業の発展のため一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、沖縄県小児保健協会の限りない発展と関係各位のご健勝を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

平成 20 年 12 月



こども医療センターの大きな役割と期待

沖縄県町村会

会長 宮城篤実

このたび、沖縄県小児保健協会が創立 35 周年を迎え、長年にわたる活動の内容等を収録した記念誌が発行される運びとなりましたことを沖縄県の町村を代表いたしまして、お祝いの言葉を申し上げます。

まず、小児保健事業に携わる関係各位におかれましては、今日まで幾多の困難があったにも拘わらず、小児保健活動の推進向上のためご尽力なされてこられました。そのご苦勞に対しまして、心より感謝の意を表する次第であります。

さて、ここ 35 年間で社会経済情勢の変化に伴い、地域社会を取り巻く環境は著しく変化し、子どもたちを取り巻く環境も変化してきております。小児におけるアレルギー性疾患の増加のみならず、従来大人の病と考えられていました生活習慣病・こころの病気といった病まで増加しております。また、共働きの増加に伴う留守家庭児童の問題など、行政にとりましても子どもの健全な発育・発達を保障する環境づくりは重要な課題のひとつであると考えております。

本県は他の都道府県に比べて出生率や総人口に占める子どもの割合が高く、総務省から 2007 年度の沖縄県の人口あたりの子どもの割合は 18% (全国平均 13.5%) で少子化の中 2 位を大きく離れた全国一と報告されました。つきましては、児童に関わる諸問題については他都道府県以上の積

極的な取り組みが要求されております。

2006 年に県立南部医療センター・こども医療センターが開院し、全国でも 28 番目となる「こども病院」が開設されました。こども医療センターには小児集中治療室が県内で初めて開設され、本県の小児保健活動の推進向上に大きな役割を果たしております。

このような状況のなかで、小児保健協会は乳幼児健康診査をはじめ、小児保健学会の開催、小児医師研修会、母子保健推進員研修会等、小児保健に関する数多くの事業を行い、地域と密着した事業を展開し多大な成果を収められていることに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

今後とも教育、福祉の分野との連携は無論のこと、県、市町村、小児保健協会が手を取り合って諸施策の展開に努めなければなりません。

終わりに、これからの子どもたちの健やかな成長を願う責任の重大さを再認識し、今後とも市町村に対するご指導・ご協力をお願い申し上げますと共に、小児保健協会のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成 20 年 12 月



35年の小児保健活動に敬意を表して

沖縄県医師会

会長 宮城 信雄

沖縄県小児保健協会が創立35周年を迎えられるにあたり、心よりお慶び申し上げますと共に、35周年の記念誌発行にあたり、お祝いの言葉を申し述べますことを光榮に存じます。

近年の核家族化や少子化等の社会環境の急激な変化は、子どもたちの心身に大きな影響を与えております。さらに、小児科医の不足や小児救急医療体制が不十分であることなどが、新聞・テレビで大きく取り上げられ社会問題化しており、子育て中の親にとっては最大の心配事となっています。小児保健関係者が、今後ますます専門的な知識や高度な医療技術を持つと共に、子どものこころの問題にも対応できる広汎な領域に対応することが求められております。

このような状況のなかで、貴協会は乳幼児健康診査の実施、はしか“0”プロジェクトに積極的に取り組まれると共に、小児保健関係者の資質向上のため、講演会・セミナー等の開催、広報紙の発行、県外学会等への関係者の派遣等を行っており、沖縄県の小児保健医療の向上に多大な貢献をされているものと思料いたします。

特に、貴協会が発足当初より35年間の長期に亘って実施されております「乳児一般健康診査」は、乳児の異常を早期に発見するスクリーニングの絶好の機会となっております。昭和55年には70.4%であった受診率が、平成19年には87.5%と

28年間に17%の伸びを示すなど、沖縄県における乳児健診の礎を築かれたものと衷心より深甚なる敬意を表するものであります。

また、現在、麻疹対策として全国の保健医療関係者から高い評価を受け、麻疹対策のモデルとされております「はしか“0”プロジェクト」「全数把握制度」は、貴協会が中心となって多くの関係者との調整を図られたことにより実現したものであり、保健医療関係者として感謝申しあげる次第です。

これらの功績は、玉那覇榮一会長をはじめ歴代会長の卓越した手腕のもと、会員の皆様が一丸となって取り組まれた成果であり、今後、次代を担う子どもたちが心身共に健やかに生まれ育つために、貴協会が果たす役割はますます大きくなっていくものと存じます。

終わりに臨み、沖縄県小児保健協会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、祝辞といたします。

平成20年12月